

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990900011		
法人名	株式会社 ファミリーホームなか		
事業所名	ファミリーホームなか グループホーム「きぬの里」		
所在地	栃木県真岡市中313-3		
自己評価作成日	2013年2月21日	評価結果市町村受理日	平成25年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成25年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても、地域の中で家族とのつながりを大切に、今迄の生活が継続できるよう支援を行っています。ご利用者様の高齢化等により、外出の機会は減っていますが、施設の敷地内の散歩、ドライブ、買い物、地域自治会主催の行事にも参加し、月1度は、職員が交代で企画を立て、外食やカラオケ等に出かけています。ご利用者様の立場に立ち、全ての職員が寄り添いながらの支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念でもある「やすらぎとよこびの日々」が実現できるよう、細かな点でも工夫や配慮がされているホームである。特にホーム単独では難しい会議や勉強会などは隣接する小規模多機能事業所と連携しながら合同で行ったり、利用者が自由に行き来できる環境となっている。その為に職員は日常的に交流やお互いの業務を助け合っており、全員で利用者一人ひとりと一緒に生活している状況を作り出している。利用者の個性や過去の出来事を把握しながらホームの機能である個別性を大切にしながらケアに努めている。家族をはじめ、近隣の方が気軽に立ち寄れるような雰囲気作りや実際に協力を得られる事で利用者が馴染みの関係を継続出来る体制となっている。市との連携も良好であり、地域からの協力を得るだけでなく、事業所の持つ機能を地域へ還元できるよう利用者を中心に積極的に活動しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	株式会社 ファミリーホームなか 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で家族や地域のつながりを大切に今迄生活が継続できるよう、確認しあい職員全員で共有を図っている。	「やすらぎとよこびの日々」という理念をつくり、利用者の個性や過去を把握しながら、その人らしく生活できるような関わりを心がけ、管理者と職員は実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会の行事に参加している。近所の方からの野菜の差し入れ等もあり、入居者の方とお茶を飲まれて日常的に交流を図っている。	自治会で行われているミニデイや敬老会など3～4人に分けながら参加をしている。また、近隣の方が毎日のようにお茶のみに立ち寄るような日常的な交流がされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の訪問や中学生の草取り等のボランティア活動や高校生の実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況等を会議で報告しアドバイスを頂いている。参加者より情報提供を頂き、地域での行事へできるだけ参加できるよう努力している。	市内でグループホーム連絡協議会が開設され2ヶ月に1度、認知症ケアの勉強等を行っている。隣接する小規模多機能事業所と合同で各利用者と家族も参加しながら積極的な話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市担当職員が出席しており、ホームの課題や状況を把握してもらい、円滑に進むように助言を頂いている。認知症グループホーム連絡会議に参加も参加している。	市担当者や包括支援センターなどとの関係も良好であり日頃の連絡が取れている。今後は利用者の状況に合わせて訪問看護の活用を検討している。また、ホーム機能を還元できるような提案も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束ゼロを実践しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回の勉強会でも取り上げており、職員が調べたレポートを発表する形となっている。他のホームからの参加もあり、参加者はレポートを提出して知識の定着を図っている。車椅子の使用法やことばの範囲も拘束という理解が浸透している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が拘束ゼロを実践しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の虐待を含めて話し合い職員同士が注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書を読みながら説明を行い疑問点には十分話し合い理解して頂けるようにし、納得して頂いてから契約を行っている。また、問い合わせなど随時対応し理解につなげている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に随時サービス状況の報告がなされ、家族からの意見、要望などを運営に反映させている。	意見を反映して外出機会が増えた。毎月、外食やドライブが行われ年間計画で決めている。また、歯科医や内科医の往診も行われるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、朝礼やミーティングで提案や意見を聞き、代表者に相談を行い、改善ができるようにしている。	日々のケアの気付きを管理者へ気軽に話せるようになっており、利用者へのケアの改善、見直しなどが行われている。また、職員の処遇についても検討されている。	職員が働きやすいような環境や体制作りの検討も期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に相談を行い改善を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修にできるだけ参加できるように努力をしているが、内部研修等も把握しきれないところもある。OJT等を活用し新人の育成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の協力のもと、グループホーム連絡会議を開催し、同業者との交流が図れるよう勉強会が開かれ参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族と面談をしたり、ホームを見学してもらい本人の納得のうえで入居者の視点に立った柔軟な支援をしていくことができるように家族と相談しながら馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や面接時に家族が何に困りどんな要望なのかなどを探り、どんなことでも話せる雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りや情報をもとに、一人ひとりの状況に応じた支援ができるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と共に過ごす時間を大切にしている。日々の暮らしの中で得意とする場面での本人の出番を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人希望の外泊や外出できる支援や情報提供等、常に支えあう努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚等の顔なじみの方との面会時は、好きな場所での接待に努め「また、来てください」などの声かけをして関係が継続できるように支援している。	家族が受診の同行をする事になっており利用者本人が関わられる機会を作っている。家族の了解を得ながら職員が対応して自宅を見て安心してもらったり、馴染みの店に出掛ける、希望の場所へ行くなど関係が継続されるような工夫もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	管理者は、朝礼やミーティングで提案や意見を聞き、代表者に相談を行い、改善ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所による退所の方に対しては、電話での連絡をしたが、相談や支援までには至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者の情報を共有し、思いや意向の把握ができるように努め、職員同士話し合い確認しながら、本人の意向にできるだけ添うようにしている。	一緒にお茶を飲みながらリラックスできる雰囲気を作ったり会話を通じて思いや意向の把握に努めている。また、相性も検討して職員を代えたりして言い易い場面を意識して作るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族と面談をしたり、ホームを見学してもらい本人の納得のうえで入居者の視点に立った柔軟な支援をしていくことができるように家族と相談しながら馴染みの関係づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがどのようなことができるか職員全員で共有し一日の暮らしの中で持てる力が絶えないように努め、日々の変化する現状の把握を日々行い、朝礼やミーティングで話し合い		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した計画作成の為、その時々の変化、気付き等、ミーティングでも話し合いそれぞれの意見やアイデアが反映できるプランの作成している。家族からの要望・意向に添うよう確認しながら作成している。	月1回は夕方から1時間半程度のミーティングをして、各職員が感じた事も含めて話し合っており、モニタリングも併せて行われている。医師からの助言なども参考にしながら作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに連動した介護記録、食事摂取量、排泄等個別に記録し、申し送り時に変化や気づきを伝え、共有を図り実践に繋げている。継続した支援ができるよう見直し、積み重ねた情報を生かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との暮らしを支えられるよう、できるだけ意向に添うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、定期的に関催されるミニデイに参加している。地域のボランティアの訪問があり、馴染みとなり、毎回楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診がスムーズにできるようチェックし家族に連絡をしている。又、受診の時にスタッフが同行することもある。	元々受診をしていたかかりつけ医を選んでいる方が殆んどであり、医師へ直接、職員が連絡をして情報提供が適切に行えるような体制となっている。往診としては近隣の歯科医や内科医の協力も得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師の配置がない為、併設である小規模多機能の看護師に相談ができようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時と病院関係者との情報交換等を行っている。利用者が安心して治療ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けての話し合いは、利用者全員には至っていないが、往診に変更した方がいらっしゃる。	重度化に対応する為、訪問看護の活用を検討している。終末期への希望も出ているのでハード面やソフト面での充実をどのようにしていくかを検討している。	マニュアルや指針の作成が今後行われるような取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会での実践を継続的に行っている。又、救急救命講習を消防署の協力のもと行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中、夜設定で消防署の協力のもと行っている。又、非常食を備蓄している。	建物はオール電化にしたり、スプリンクラーの設置など火災予防をしている。リスク管理や改善方法も検討されている。また、今後は区長や隣人の協力が得られるような調整も検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いつの時も尊厳を守り、日々支援の中で、さり気ない言葉かけや誘導の仕方をし、勉強、話し合いしている。又、職員同士で注意をしている。	勉強会でも取り上げており、日々のケアの中でも職員間でチェックするような取り組みをしている。気になる対応については率直に言い合える関係性も確立されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共に過ごす時間を大切にしている。その中から想いが伝わってくるが多く、その想いを察知し、職員と相談しながら自己決定等繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の日課は、入居者一人ひとりに添った流れで支援している。朝晩の就寝時間や起床時間等入居者各々に対応している。また、外出や散歩等希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今迄の生活の中でのこだわりの部分を大切にし、化粧、家族持参のクリーム等使用時の支援を行っている。外出や入浴後の着替え等、本人の意向を聞き共に支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配材料を導入しているが、季節感を大切に献立を変更したり、外食や出前等も希望により行っている。職員はテーブルを共に同じ食事をし会話をしながら食べている。準備や後片付け等も職員と共にしている。	利用者の洗い物やテーブル拭きなどの参加がある。口腔ケアなどへの配慮もしており、口から食べられるような取り組みを心がけている。おやつも利用者に希望を聞きながら手作りにする事がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のアドバイスを受け、栄養のバランスを考え、食べる量、形態、器等個々にあわせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを実践し、それが習慣になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、尿意のある方は勿論のこと、無い方も自立に向けてトイレ誘導を行っている。又、24時間排泄チェック表により確認を行い、個別の排泄ケアを工夫している。	基本はトイレで行う事としており、夜間も実践されている。下剤の調整だけでなく、排泄の仕方も検証しながら無理なく行える方法を検討し合い実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日定時に乳酸飲用やメニューの工夫等の他腹部のマッサージ等その方にあった支援をし、自然排便繋げている。下剤内服の管理、確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間帯等、ある程度決まっているが本人に添った入浴の仕方や時間帯等意向に添うように支援している。	週3回を目安としており、順番等にも配慮をしている。利用者の状況に合わせて隣接する小規模多機能事業所の浴槽を使用する事もある。この機会が気分転換にもつながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベット上での生活が馴染めない方には畳で就寝して頂けるようになっていく。午睡の習慣のある方や、その日の体調に合わせて休息の仕方を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬票の作成や処方箋の内容の確認を職員全体で把握し、処方変更になった時は、家族や主治医に内容の確認をしている。変更後の状態の変化等の確認を職員間で共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活の中で得意とすることを職員と共に楽しみを持ってできるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って近隣への散歩に出かけたり、食材の買出しに同行し食べたいおやつや購入等支援に努めている。初詣、花見、買い物、ドライブ等に外出している。	年間計画に入れながら実施されている。地域の方々に車椅子で入れるトイレのある店を探してもらったり、利用者の希望が叶えられるような店の開拓も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が多い為、ホームで小遣を預かっている。外出時の買い物や散髪等の支払いに当てている。買い物では、本人がレジで支払いができるよう付き添い支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや希望時には本人が掛ける事もあり、関係が継続できるよう支援している。手紙は個人宛に届くが返事は出すことができない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭い等しないように常に環境整備に心がけている。温度管理や換気にも気を配り快適に過ごせるよう支援している。床暖房が敷設されており、穏やかな温もりが保たれている。	乾燥する時期には室内干しにしたり加湿への配慮もしている。なるべく自然の風が入るように換気もこまめに行っている。ホールは装飾をして季節感を出すような工夫も行われている。	加湿器の大きさが部屋の広さに対応していないようなので、対応の検討をお願いしたい。また、今後、花粉対策についても空気清浄機の活用も、より効果的だと思われるので、検討して頂きたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ、サンデッキ等思い思いの場所で気のあった方との会話等が楽しめるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋にはテレビ、仏壇等の家賃、家具類の他、家族の写真等が持ち込まれており、本人が安心して生活が送れるよう工夫している。	居室への持ち込みは自由となっており、家族が家具など部屋のレイアウトをしている。こまめに確認や協力が得られるようになっている。また、空調は各部屋にリモコンがあり自由に使用できる。適温になっているかを職員が確認をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に何が分からなく、どうしたらできるかを探り、その時々に対し、自立した生活ができるよう工夫している。部屋の名前やトイレの場所等、身体機能の変化にも配慮している。		